

2012年3月期 上半期連結業績概要
2012年3月期 通期見通しについて

TDK株式会社
代表取締役社長
上釜 健宏

2012年3月期上半期連結業績概要



(億円)	2011年3月期 第2四半期累計実績 (2010.4.1~2010.9.30)	2012年3月期 第2四半期累計実績 (2011.4.1~2011.9.30)	対前年同期比	
			増減	増減率(%)
売上高	4,422	4,172	△251	△5.7
営業利益	372	138	△234	△62.9
営業利益率	8.4%	3.3%	△5.1pt	-
税引前利益	346	107	△240	△69.2
当期純利益	261	67	△194	△74.3
1株当たり利益(円)	202.46	52.09	△150.37	-
為替	対ドルレート	88円89銭	79円84銭	10.2%の円高 0.2%の円安
	対ユーロレート	113円80銭	114円00銭	
為替変動による 影響金額	売上高：約332億円の減収 営業利益：約109億円の減益			
震災による 影響金額	売上高：約57億円の減収 営業利益：約36億円の減益			

年金制度の変更に伴い、第1四半期の営業利益段階で約31億円の一時費用が発生しております。

◆ エレクトロニクス市場動向

- 東日本大震災による生産調整から主に日系自動車関連市場が回復基調
- スマートフォン、タブレット端末の生産は対前年同期比で増加
- 薄型TV、ノートPC、HDDの生産は前年同期とほぼ同水準で推移

◆ 当社の状況(上半期累計売上高の前年同期比較)

- “受動部品” 売上高：2,016億円（前年同期比 5.6%減）
 - ✓ アルミ電解コンデンサ・フィルムコンデンサーが産業機器市場向けを中心に増加
 - ✓ セラミックコンデンサ、インダクティブデバイスが情報家電市場向けで減少
 - ✓ 高周波部品が携帯電話向けで減少
- “磁気応用製品” 売上高：1,672億円（前年同期比 13.2%減）
 - ✓ 記録デバイスの販売が円高、売価下落の影響を受け販売が減少(前期比20.8%減)
- “その他” 売上高：484億円（前年同期比 33.4%増）
 - ✓ 二次電池の販売がタブレット端末向けを中心に大幅に増加

タイで発生した洪水による被害状況について



会社名	所在地	生産品目	状況
TDK Thailand Co., Ltd	ロジャナ	金属磁石 記録メディア センサ	工場内に浸水、操業停止中 タイ以外の第3国での代替生産等を予定
TDK Thailand Co., Ltd	ワンノイ	金属磁石応用製品	操業停止中/設備被害無し 従業員の安全確保が確認出来しだい 生産再開するとともにタイ以外の第3国での 代替生産等を予定
Magnecomp Precision Technology Public Co.,Ltd (本工場)	ワンノイ	HDD用サスペンション	操業停止中/設備被害無し 従業員の安全確保が確認出来しだい 生産再開の予定
Magnecomp Precision Technology Public Co.,Ltd (分工場)	ロジャナ	HDD用サスペンション	工場内に浸水、操業停止中 一部の設備はワンノイ工場へ移動済

2012年3月期通期業績見通し



(単位：億円, %)

期 科目	2012年3月期 予想 2011年10月 発表	2012年3月期 予想 2011年6月 2011年7月 発表	2011年3月期 実績	2011年3月期対比 増減	
	金額	金額	金額	金額	増減率(%)
売上高	8,200	8,900	8,757	△ 557	-6.4
営業利益	350	670	638	△ 288	-45.1
税引前当期純利益	300	650	601	△ 301	-50.1
当社株主に帰属する当期純利益	200	500	453	△ 253	-55.8
固定資産の取得	800	850	786	14	1.8
減価償却費	800	850	776	24	3.1
研究開発費	520	530	530	△ 10	-2

2012年3月期第3四半期以降の平均為替レート想定

対米ドル=76円（従来想定：80円）

対ユーロ=105円（従来想定：110円）

エレクトロニクス市場、主要セット製品の見込み、円高の影響及びタイで発生している洪水の影響等を考慮し従来見通しを修正致します

◆ 1株当たり配当金見通しの修正

中間配当金 40円

期末配当金 40円（見通し）

年間配当金 80円（見通し）

前回発表いたしました当期期末配当金50円/株の予定を
当期業績見通し及び当社配当政策等を勘案し、変更いたします。

モノづくり力強化と収益力改善の為の施策を実施

- ▶ 生産拠点の最適化推進
- ▶ グループ全体で約11,000名の人員削減を実施
- ▶ 不採算事業・製品への対応
 - ✓ 有機EL事業売却など
- ▶ 固定費削減
- ▶ 国内外の遊休資産の売却

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。

